

相澤久美さん 災害リゲイン 災害と情報について

大切だと思うことのために仕事をしている

2011. 3. 11東日本大震災発生

3/14東京から淡路島に避難

- ・情報の錯綜を客観的に確認

3/30被災地を情報で支援することを決める

- ・被災者が必要な情報、被災者が発信したい情報を届ける

4/29 RQを頼り現地に入る

- ・顔の見える関係をベース
- ・ニーズ調査

2012年6月「災害リゲインプレス」創刊 全国4万部無料で配布

- ・被災者が必要な情報、被災者自身が発信したい情報を届ける
 - ・記号化された被災者ではなく、ひとりひとりの状況を伝える
 - ・支援したい人のために情報を適切に伝える
 - ・防災、減災、事前に備える情報を適切に伝える
- 自分が被災するとは考えてなかったなど、情報をみない

東北以外の被災地でも号外を発行

- ・被災後の公的支援制度の情報を発信

「事前に知っている知識があるだけで命をつなぐことができる」

東北では責任感のある人が多く命を落とした

→自分の命は自分で守ればいはず

ネットに情報は溢れているが、自分で検索しなければ到達しない

→逆に言えば検索している人は問題ないだろう。

紙（実物で）手元に届けることに意味がある

→考えるきっかけ作り

10年目を迎えたが、あと10年はあることを決意

「みちのく潮風トレイル」

2015～

2017 NPO法人みちのくトレイル

震災をいつまでも語り継ぐための記憶の道

メディアを介さないリアルな情報

自分ごととして捉えて自ら捉える

地元民は自分のとなりにいる人がどのような被災をしたかわからないから話せない

→結果的に風化していく

ハイカーは地元民ではないので地元民が話することができる

→旅人だから話せる

【質問&意見交換コーナー】

感想

・住宅支援などの制度については慣れた人だと情報を伝えらるが、多くはそうではないので事前に知ったり、ネットワークで補えることはいいこと

返答

・罹災証明などまだまだ知らない人が多い 知るべき情報を常にリサーチして発信

感想

・被災時に紙媒体は非常に大切（被災時は電子機器は弱い）

情報の行きつく先は意味を共有すること

→意味が伝わらないと行動に繋がらない

伝承施設について

・その場に行くと感じるものがあるが、日常では忘れがち

・日常を感じてから伝承施設にいくとより深く感じることができる（何が失われたのか？なにを取り戻さないといけないのか？）

伝承施設って過去のこと

防災訓練は未来のこと

現在のことが抜け落ちている（ココが大事）

→相澤さんが感じていることを噛み砕いて落とし込めればいいのか？

歩くことで人と出会い、話すことが大切

→しかしこれがかなり難しい、自然に会話が生まれにくい・・・

災害リゲインを教科書に読み合いなどをする勉強会などできるのでは？

宮崎サイドのキーパーソンがトレイルを歩くのも勉強になるのでは？

みちのくトレイルで話してくれる人にはどの程度話せるのか？

-語り部さんとかを用意しているの??

→語り部はなし。勝手に出会ってる。地元民にはトレイルが認知されつつあり、おなじみのよく話してくれるひとはいるが、そうでない人にも出会うことができる

→2012年からやってきたことが繋がっているのかも

→10時間程度歩くことになるので、話す機会が生まれやすい

→出会わないこともある